

+Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒194-0211
東京都町田市相原町1857
長谷川 あや子
TEL&Fax:042-771-6962
E-mail: ayako.h3@nifty.com

2026年2月

The Service Club of The YMCA

第368号

東京八王子ワイスメンズクラブ

会長	長谷川 あや子
副会長	久保田 貞視
書記	小口 多津子
会計	稻葉 恵子
直前会長	並木 真
担当主事	西嶋 健太
ブリテン	山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン（シンガポール）主題「信念、愛、行動」
スローガン「共に、より強く」
アジア太平洋地域会長 田上 正（熊本むさし） 主題「信念と愛を持って行動しよう！」
スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
東日本区理事 山下 真（十勝） 主題「ワイスのらしさ再発見」
スローガン「Change!」
あづさ部部長 山口 直樹（東京武蔵野多摩） 主題「垣根を低くし、活発な活動を」
八王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

2026年2月例会プログラム (Time of Fast-断食のとき)

日時: 2月14日(土) 18:00~20:00
会場: 八王子市北野事務所 2階大会議室
〒192-0906 八王子市北野町549-5

*当なお問い合わせは、090-8084-7173 並木まで
担当C班: 山本、大久保、西嶋、並木(信)
受付: 大久保メン、山本メン 司会: 西嶋メン

- プログラム
- ・開会点鐘 会長 長谷川あや子
 - ・ワイスソング 一同
 - ・ワイスの信条 一同
 - ・聖書朗読・開会祈祷 並木信一メン
 - ・ゲスト・ビジター紹介 会長 長谷川あや子
 - ・卓話「“フードバンク八王子えがお”的働きの今」
—今日の日本社会の食の貧困を思う—(仮)
卓話者: 三浦すみえさん
(NPO法人フードバンク八王子えがお事務局長)
 - ・諸報告 会長・YMCA・各担当他
 - ・スマイル 大久保メン
 - ・Happy Birthday (久保田佐和子さん他当日の該当者)
会長 長谷川あや子
 - ・閉会点鐘 会長 長谷川あや子



【フードバンク八王子えがお】店頭風景

先月の例会ポイント (1月)

在籍	11名	切手	計 0g
メン	10名		
マイキヤップ	0名		
出席率	91%	現金	0円
ネット	1名	スマイル	9,450円
ゲスト	1名	累計	78,150円
ビジター	0名		
ひつじぐも	1名		

今月の聖句(2026年2月)

土地の実りを刈り入れる場合、あなたがたは畠の隅まで刈りつくしてはならない。刈り入れの落ち穂を拾い集めてはならない。ぶどう畠の実を摘み尽くしてはならない。ぶどう畠に落ちた実を拾い集めてはならない。貧しい人や寄留者のために残しなさい。私は主、あなたがたの神である。

(旧約聖書 レビ記 19:9~10 聖書協会共同訳)

卷頭言

3月の街頭募金に向けて

会長 長谷川あや子

「対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために」第24回チャリティコンサートが開催されますが、コンサートに先駆けての街頭募金も同じ回数を重ねてきたことになります。

当初は京王線八王子駅前とJR八王子駅前の二か所に分かれて行いました。「地雷廃絶のために」と呼びかけても関心を寄せて下さる方はそう多くはありませんでしたが、北野駅前に停車していたタクシーの運転手さんがなんと1万円を寄付して下さったこともあります。又、足に障がいをお持ちの方が「自分はいつも皆さんから支援を受けることが多い立場だが、こんな時に少しでもお役に立ちたい。」とおっしゃって私たちと一緒に募金に立って下さったものもありました。

3月上旬はまだまだ寒く、街頭に2時間立って声を出すのは大変ですが、私たちの姿に目を留めて募金して下さる方には本当に嬉しいものです。そして街頭募金後には近くの会員宅でのラーメン例会!!これが大きな楽しみで励みでもありました。

2026年3月7日(土) 能登半島地震被災者支援街頭募金活動

(左下からの続き)

2011年3月、東日本大震災に見舞われコンサートも中止になりました。コンサートのチケットを買って下さった方には了承を得て、JCBLと東日本震災支援に寄付させて頂きました。翌年から2019年まで街頭募金は東日本大震災被災者支援のためとし、東京YMCA、中大ひつじぐも、近隣ワイズの方と一緒にJR八王子駅前に立ちました。

2024年元旦、能登半島大地震がおきました。この年の街頭募金は「能登半島大地震被災者支援のため」とし、八王子駅前に立ちました。お正月の大地震とあって皆さんの関心も高く大勢の方が募金して下さいました。

能登半島は地震について大雨災害にも見舞われ復興もままならない状態です。そして今年の冬は大雪で各地に被害が出ています。

2026年3月の街頭募金も「能登半島大地震被災者支援のために」といたします。

私たちの出来ることは本当にささやかですが、街頭募金が少しでもお役に立てばと思っております。

まだまだ寒い季節ですが、皆で奮い立ちがんばりましょう。

今年も募金活動を実施いたします
ご協力をお願いいたします

JR八王子駅北口駅頭にて

- ・東京八王子ワイズメンズクラブメンバー
- ・東京YMCA 事務局
- ・中央大学ひつじぐも
- ・近隣友人
- ・YMCA 山中湖センター長



感謝状 授与！！



八王子市民活動協議会よりの感謝状授与 久保田貞視

東京八王子ワイズメンズクラブは令和8年1月18日に開催された八王子市民活動協議会の新年交流会において、10年会員として感謝状を贈呈されました。これは市民活動協議会に特別貢献したわけではなく10年間、正会員になり会費を払い続けた結果です。

20年前の66歳の時にサラリーマン生活に区切りをつけて地域でのボランティア活動をしたいとして所属しているワイズメンズクラブのほかに地域に密着した活動が出来ないかとボランティア団体のまとめ役である同協議会に個人で入会し、その10年後に個人より団体に切り替えて10年が経ちました。

その間、「はちおうじ NPO ハンドブック」にはわがクラブの活動とクラブ紹介を掲載しているのですが、出来ればワイズに会員をリクルート出来ないかと常に考えていたのですが、難しく、現在の「志民塾」の前身の「地域でデビューOB会」のメンバー数人で20年近くにわたり毎月勉強会を継続している程度です。ただ、協議会での他の会員の刺激を受けて地元の自治会の役員を経験し、シニアクラブ復活に協力して活動している現状です。

唯、同協議会には健康福祉、子ども、まちづくり、文化・スポーツ、環境、国際、情報・科学技術、人権・平和などの多くの団体が所属しており、我がワイズがどこかの団体と協働して活動するチャンスは残っています。

例会卓話 要約 ドクター肥沼こと肥沼信次博士の生涯と功績

講師：田口秀夫氏

(Dr 肥沼の偉業を後世に伝える会事務局長)

要約

本講義は、第二次世界大戦後のドイツ・ヴリーゼン市で伝染病チフスの治療に尽力し、自らも命を落とした日本人医師、ドクター肥沼こと肥沼信次博士の生涯と功績、そしてその偉業を後世に伝える「ドクター肥沼の偉業を後世に伝える会」の活動を紹介するものである。

前半では、博士がドイツへ渡る経緯、劣悪な環境と物資不足の中でたった一人の医師として献身的に治療にあたった末に亡くなるまで、関係者の証言を交えて紹介される。後半では、東西冷戦により長らく埋もれていた博士の功績がベルリンの壁崩壊後に再発見され、八王子市とヴリーゼン市の友好の礎となるまでの経緯、そして顕彰碑建立や桜並木プロジェクトといった両市での顕彰活動が詳述される。



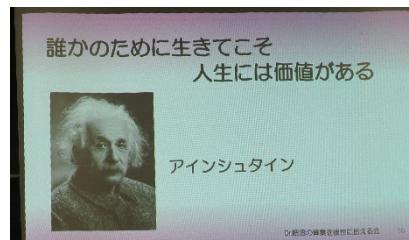
ひかげている。

知識ポイント

1. 肥沼信次博士の生涯と功績

ドイツへの渡航と研究

1908年、東京・八王子市中町で外科医の父のもとに4兄弟の長男として生まれる。



学を志す。

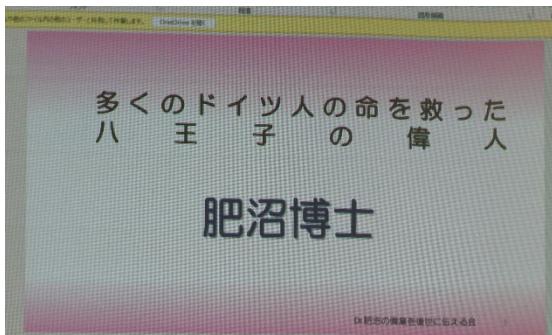
日本医科大学卒業後、東京帝国大学医学部で放射線の研究に打ち込み、1937年、29歳でドイツのベルリン大

アインシュタインの「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」という言葉に影響を受け、ドイツ留学を志す。

学へ留学。

第二次世界大戦が勃発し、帰国勧告が出されるも「この研究は、いつか人のためになる日が来る」と信じ、ドイツに留まり研究を続けた。東洋人初の教授資格を取得した。

ヴリーゼンでの英雄的医療活動



終戦後、ソ連軍地区司令官の要請を受け、伝染病の発疹チフスが蔓延していたヴリーゼンの伝染病センター責任者に就任。他の医師が逃げ出す劣悪な環境下、医師は肥沼博士一人といつて状況で「患者を見捨てて逃げることは絶対にしない」と宣言。

ベッドが足りなくなると床に藁を敷いて患者を受け入れ、夜は往診に出かけるなど昼夜を問わず治療にあたった。薬や食料が不足すると、週1日の休みを利用して自ら何十キロも離れた街まで買い付けに奔走した。

最期と残された言葉

1946年3月6日、過労から自らもチフスに感染。治療薬を渡されるが「他の患者さんに使ってくれ」と拒否し、1946年3月8日に37歳の若さで亡くなった。彼の信念「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」は、救われた人々の心に生き続けている。

2. 功績の再発見と日独の交流

埋もれていた功績

博士の死後、ヴリーゼンが東ドイツに属したため東西冷戦によって情報が制限され、その功績は半世紀近く世に知られなかつた。

母親ハツさんは息子の消息を探し続けたが、死の知らせが届いたのは6年後だった。

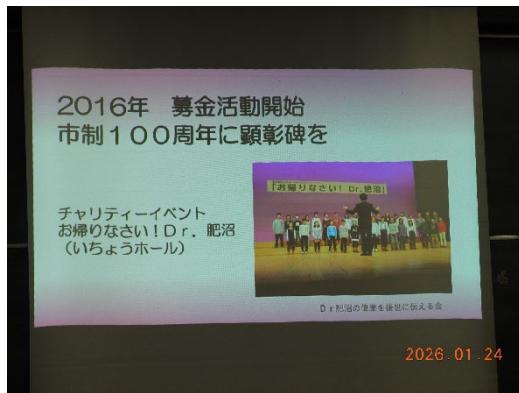
再発見と顕彰活動の始まり

1989年のベルリンの壁崩壊後、1990年に朝日新聞に掲載された遺族を探す記事を弟の英二さんが見たことで、功績が両国で明らかになつた。

1993年、ヴリーゼン市役所に記念銘板が掲げられ、翌年、博士は市の名誉市民となつた。

2000年、八王子医師会の募金により、ヴリーゼン市役所前に顕彰碑が建立された。

「ドクター肥沼の業績を後世に伝える会」の活動



設立経緯：約20年前、代表の塚本氏が博士の存在を知り、出身地の八王子で知られていない状況を憂い、10年前に会を設立。講演者の田口秀夫氏は事務局長として活動している。

八王子での顕彰：2017年、会の募金活動により、肥沼医院があつた中町公園に顕彰碑を建立。

同年、八王子市はヴリーゼン市と海外友好交流都市協定を締結した。

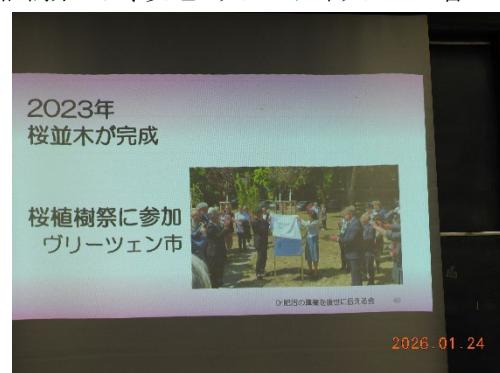
ドイツでの顕彰：2021年、ヴリーゼン市役所から墓までの道が「ドクター肥沼通り」と命名。2022年には「さくらプロジェクト」を開始し、寒さに強い桜を寄付。2023年に桜並木が完成した。

後世への継承：子供向けの絵本や紙芝居の制作・寄贈、小中学校での講演、中町休憩所での展示コーナー運営などを行つてゐる。

継続的な交流

ヴリーゼン市民は毎年博士の命日に慰靈祭を開催。八王子の小中高生から毎年5000羽の千羽鶴が贈られてゐる。

桜植樹祭では、現地の人々と日本人ツアーリー客が一緒



に八王子の「太陽おどり」を踊つた。

3. 大学での活動とその影響

中央大学松戸ゼミ：約9年前にゼミ生が博士に関する番組形式の論文を制作。この学生は後にNHKに就職した。

創価大学「八王子学」という授業で中央大学の活動が参考にされている。

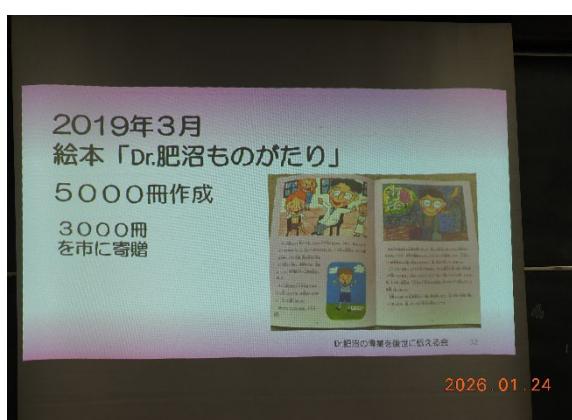
これらの活動は、小中高生が福祉の仕事や理学系分野に関心を持つきっかけにもなっている。

4. 講義のメッセージと告知

講演者は、博士が実践した「誰かのために生きてこそ人生には価値がある」という言葉を胸に、困っている人を助けることの重要性を訴えた。

2026年3月7日(土)夕方に中町公園で開催される慰靈祭への参加を呼びかけている。

このイベントでは400本の竹灯籠と1000個のLEDキャンドルが点灯される。



今月の聖句に寄せて (2026年2月)

富んでいる人はますます富み、貧しい人はますます貧しくなっていく、このような社会があつていいはずはありません。弱い人が生きづらさを覚えることなく、誰もが、あなたはこの場についていいのだ、と、肯定されていることを知られる寛容な社会でありたいと思います。このような社会で大切なのが「残しておく」、「分かち合い」という言葉であるように思います。

ミレーの絵画で「落穂ひらい」という有名な絵画があります。刈り入れのあと、畑に残された落ち穂を拾う婦人の絵です。この落ち穂は、刈り入れの時、弱い人を支える手段として、あえて残された麦の穂です。根こそぎ穂りつくせば自分の収入は増えるけれど、あえて貧しい人や旅のために「残しておく」という、今月の聖句に示された教えにもとづく行為です。

自分にとって利益となる事柄と不利益になる事柄があります。自分にとって不利益になる事柄だが、他の人にとっては利益になる事柄を選び取ること。このような行為を「サクリファイス」というのだと教えられたことがあります。ボランティア活動の根幹をなす思想となっています。

社会のひづみや富の偏重によってもたらされている、食の貧困であったとしても、この食の貧困に立ち向かう、今日の「フードバンク」や「こども食堂」などの働きの裏付けになっている思想も、このボランティア活動の思想と言えます。

ワイズメンズクラブにとって2月は「Time of Fast(飢餓の時)」を強調月間として、とりわけ、食に困窮する人々や開発途上の国や地域にあって生活困難に陥っている人々の存在を覚える月となっていますので、とりわけ、フードバンクやこども食堂などの働きに心を寄せていきたいものです。

並木信一



ミレー 落穂拾い

わくわくビレッジ便り 館長 西嶋健太



立春を迎えたとはいえ、朝夕の冷え込みが身にしみる季節となりました。皆さまには、日頃より高尾の森わくわくビレッジの運営に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、今月の当館の様子をご報告いたします。現在、体育室・研修室・教室の工事を進めている影響により、大人数での宿泊団体のご利用はやや減少しております。その一方で、ご家族でのご利用が大幅に増え、親子で自然体験を楽しまれる姿が多く見られました。全体の来館者数につきましては例年通りの水準を保っており、今年度も安定した利用状況で推移しております。

年始にかけては満室の日が続き、冬休みの思い出づくりの場として、多くのご家族にご利用いただきました。寒さの厳しい時期ではありますが、澄んだ空気の中での散策や、焚き火を囲んでの語らいなど、冬ならではの自然の魅力を感じただけたのではないかと思っております。

また、次年度に向けた新たな取り組みとして、「Vivistop」と呼ばれる、子どもたちが自由にものづくりに没頭できる空間の設置を予定しております。学校や家庭とは異なる、新しい「第三の居場所(サード・プレイス)」として、子どもたちの創造性や主体性を育む場となることを目指し、現在準備を進めております。

さらに今月は、利用者懇談会を実施いたしました。今年度ご利用いただいた複数の学校の皆さまをお招きし、施設をより良くしていくためのご意見を伺う機会となりました。貴重なご提案をいたたくとともに、全体として高い満足度を感じただいていることが分かり、スタッフ一同大きな励みとなりました。

寒さの中にも春の兆しが感じられるこの頃、これからも高尾の森わくわくビレッジは、皆さまに愛される施設であり続けられるよう努めてまいります。引き続きのご支援を、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

東京YMCA 近況報告

2026年2月度 担当主事 西嶋健太

- 12月20日、日本YMCA同盟主催、東京YMCAと日本児童青少年演劇協会の協力で、日本在住ウクライナ避難民対象のクリスマス会が山手センターで開催され、ウクライナと日本の親子約90名が来場した。人形劇団MあんどBによるウクライナ民話「てぶくろ」や「そぐん ぞうさん」などを鑑賞した他、レクリエーションを通してウクライナと日本のこどもたちが交流した。
- 会員部より会員や関係団体等に「クリスマス募金」の協力をお願いしたところ、個人523名、企業・団体11法人、総額1,923,010円のご支援をいただいた(12月末現在)。ユースボランティアリーダー養成募金、国際協力募金、フレンドシップファンド、ウクライナ支援のために用いる。
- 「Amazon みんなでサンタクロースプログラム」(Amazon の「ほしいものリスト」を使って公益団体等に物品を寄贈するプロジェクト)を通して、1月20日現在5名の方から、外国にルーツのある子どもたちの日本語サポートプログラム、及び特別支援学校でのお話し会の活動のために物品のご寄贈をいただいた。
- 今後の主な行事予定
 - ・「ソシアルフォーラム 2025」1月31日 会場:山手センター(オンライン配信あり)
テーマ:『「赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト』が間うこと』
基調講演:大江浩氏(社会福祉法人賛育会法人事務局ミッションサポート部部長・赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト事務局長)
 - ・「早天祈祷会」2月2日(山手センター/オンライン) 嘉賓:古賀博(日本基督教団早稲田教会牧師・東京YMCA評議員会会長)
 - ・「全体職員研修会」2月11日 会場:青山学院初等部 講師:片柳弘史神父(カトリック宇部教会主任司祭)
 - ・「東日本地区YMCAスタッフ研修会」2月17日~19日(福島)
 - ・「YMCAピンクシャツデー2026」(いじめ反対運動) 2月25日
- 海外來訪者
 - ・香港中華YMCA大学生グループ12名受入。(1月5日~10日)
- 深悼 謹んで哀悼の意を表します
 - ・阿山剛男氏(名誉会員)11月召天 享年102
 - ・井口延氏(東京YMCA元総主事・とちぎYMCA初代総主事、日本YMCA同盟元総主事) 1月6日召天 享年87

ひつじぐも便い

中央大学経済学部 1年 程 大龍

こんにちは。中央大学経済学部1年で、ひつじぐものワ
イズ班に所属している程大龍と申します。遅ればせながら、
皆さんあけましておめでとうございます。

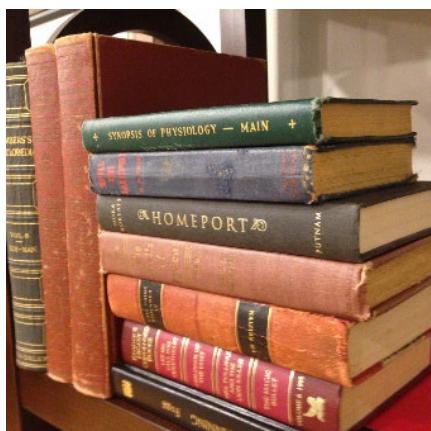


お正月と
期末試
験の時
期が重
なるた
め、他の
月と比べてい

ても以上に慌ただしさを感じました。私自身、冬休み中に昼夜逆転の生活になってしまい、休み明けにそのまま試験週へ突入したときは、生活リズムを戻しながら復習を進めるのが本当に大変でした。

ここからは、今回のひつじぐもの活動についてご報告いたします。お正月と期末試験の時期が重なっていましたため、今月は活動がほとんどありませんでした。1月7日に、実習所の方からお誘いいただいた「アトリエサークル」の活動が予定されていましたが、皆さんのご都合が合わず、残念ながら今回は見送ることになりました。また、24日にはワイスの1月例会がありました。私は個人的な都合で参加できませんでしたが、班長の2年生・霞さんが参加してくださいました。

今回の例会では、八王子市出身の偉人である肥沼信次さんについての卓話があり、あわせてワイスメンズクラブの方々とも新年の挨拶を交わしました。非常に充実しており、温かみを感じる例会だったと伺いました。



不登校問題への YMCA の取り組み

要約

本講義では、YMCAが取り組むべき社会課題の一つとして「不登校問題」に焦点を当て、その現状、背景、支援のあり方について考察する。

不登校児童生徒数が継続的に増加し、特に中学生では「無気力・不安」が主な原因である現状を統計データを用いて解説。不登校増加の背景には、2017年の「教育機会確保法」施行やコロナ禍があり、これにより学校復帰のみを目的とせず、子どもの休養の必要性を認めるという考え方へ変化したことを指摘する。また、不登校は発達障害との関連性が高く、学校側の対応の遅れも一因となっている。

この課題に対し、教育機会確保法の理念(休養の必要性、多様な学びの場、社会的自立)がYMCAの活動と高い親和性を持つとし、YMCAやワイスメンズクラブが持つ施設・ノウハウ・人材といったリソースを活用した具体的な支援策を提案。山梨YMCAでの「放課後等デイサービス」やフリースクール「YYクラブ」の開設、山梨英和高校との連携、教育フォーラムの開催といった多岐にわたる実践例を紹介する。さらに、通信制高校生の増加に伴う日中の居場所不足や経済的負担といった課題にも触れ、YMCA施設の午前中の活用、資金援助、就労体験の機会創出など、組織間連携の重要性を強調する。

最終的に、不登校支援のゴールは学校復帰ではなく、子どもたちが社会と関わりを持ち続けられる「社会的自立」であるとし、そのためには周囲の理解、寄り添う大人の存在、そして家庭や学校以外の「第三の居場所(サードプレイス)」が不可欠であると結論付けている。

知識点

1. 不登校の現状と背景

統計と実態:

不登校児童生徒数は12年連続で増加し、2024年度公表のデータでは小中学生で35万人に達する。これは小中学生100人のうち3人に相当し、特に中学校では6%(100人中6人)と深刻である。

中学校での不登校原因の1位は「無気力・不安」(54%)だが、実際には教師や友人との人間関係の問題も多いと見られる。

年間30日以上欠席する定義上の不登校に加え、保健室登校など「不登校傾向」の子どもが約10%存在し、実際にはクラスの約3倍の子どもが何らかの不安を抱えている可能性がある。

不登校増加の背景:

教育機会確保法(2017年施行):学校復帰のみを目的とせず、児童生徒の「休養の必要性」や「多様な学びの場」を認める理念が浸透し、無理に登校させない対応が広まった。

コロナ禍:一斉休校要請や感染防止のための欠席が出席扱いとされたことで、「学校に行かなくてもよい」という意識が定着し、生活リズムの乱れも相まって不登校者数を急増させた。

発達障害との関連:

発達障害のある児童生徒は不登校によるリスクが非常に高い。文部科学省も学校における発達障害への対応の遅れが不登校の一因であると認識し始めている。

2. 不登校支援の理念と課題

考え方の変化:不登校は問題行動ではなく誰にでも起こりうることという認識が広まり、支援のゴールも「学校復帰」から、本人の社会的自立を目指す「社会との関わり」へと変化している。

支援における課題:

居場所の不足:登校日数が少ない通信制高校生が日中を過ごす場所が不足している。

経済的負担:フリースクールの費用や給食費が高いことによる食費増など、不登校の子どもが多い家庭の経済的負担は大きい。

公的支援の現状:フリースクールに通う家庭や運営団体への公的支援は一部自治体で始まっているが、対象が限定的であったり、制度が未整備であったりする地域が多い。長野県の認定制度が先進事例として挙げられる。

出席扱いの実情:フリースクールでの活動が学校の出席扱いになるかは学校長の判断に委ねられ、保護者と学校の連携が必要。必ずしも認められるわけではなく、保護者にとってのメリットが限定的な場合もある。

3. YMCA・ワイズメンズクラブによる具体的な取り組みと提案

YMCAのリソース活用:

YMCAが持つ「建物(施設)」「ノウハウ」「スタッフ(人材)」を不登校支援に活用する。

山梨YMCA:

放課後等デイサービス:2021年開始。中高生を対象に民家を借りて居場所を提供。

高校生支援プログラム:臨床心理士を中心となり、週1回ストレスマネジメント等を学ぶ。

山梨英和高校との連携:2023年度から通信制コースと連携し、YMCAでの講座やボランティアが単位認定される。

フリースクール「YYクラブ」:2024年4月開始。小学生・中学生が通う。

教育フォーラム:不登校問題を社会全体で考えるため、専門家や当事者を招き開催。

各地域のYMCA事例:

熊本YMCA:リーダーが不登校児向けのデイキャンプを月1回実施。

富山YMCA:約80人の子どもたちが放課後に集い、不登校児とそうでない子が混在する形で活動。

栃木YMCA:数ヶ月に1回、文化祭的な活動を実施。

東京YMCA高等学院:不登校経験者が多く在籍する通信制サポート校。スタッフの関わりで生徒が自信を取り戻し、自ら登校するようになる。

ワイズメンズクラブとの連携:

ナイトフォーラムの開催:不登校問題をテーマにしたオンライン会議を企画し、各YMCAの実践を共有。

資金援助:ワイズの国際協会から3年間で250万円の資金援助が決定。講演会開催などへの資金支援も可能。

支援の要請:ワイズメンバーに対し、資金援助、人的援助(マンパワー)、就労体験の場の提供を要請。

東京ワイズメンズクラブ:高等学院の文化祭への参加協力や、学院のトーンチャイム部が新年会で演奏するなど連携を開始。

4. 不登校支援に必要なことと今後の展望

求められる支援:

周囲の理解:不登校を否定的に捉えず、本人や親を

責めないこと。

寄り添う大人の存在:「そのままでいい」とありのままを受け入れてくれる大人が必要。

第三の居場所(サードプレイス):家庭や学校以外の安心できる居場所を作ることが重要。

伴走支援:学校復帰にこだわらず、大検など多様な進路の情報を提供し、将来への道をつなぐ支援。

フリースクール立ち上げのポイント:

教育委員会や地域の学校、特に不登校の実態をよく知るスクールソーシャルワーカー(SSW)との連携が極めて重要。

以上「ワイスナイトフォーラム」(Zoom 開催)での講話をAIにて要約しました

東新部主催 「認知症サポーター養成講座」 のご案内

小口多津子

昨年12月例会で講座のチラシを配布しましたが、3月19日(木)2時~ 山手コミュニティセンターで開催される、認知症サポーター養成講座について、東新部CSYサ主査の峰ワイスから以下のご案内を頂きました。是非ご参加されて下さい。

「あれ、最近物忘れが増えたかな、をはじめとしてご自身や大切な家族が、認知症になった日に備え、東新部では東京YMCAとの共催で「認知症サポーター養成講座」を開催します。

実は認知症で行方不明となった方は、年18,000人と、日本武道館を満員とする数となっています。

備えあれば、憂いなしの正しい知識と共に、サポーターになれ、自分の出来る範囲の活動で、地域づくりにも役に立つ講座です。

講師は、戸塚高齢者総合相談センター職員
お申込みは、東京多摩スマイルクラブの峰毅ワイス、又は東京YMCA会員部 TEL 03-6278-9071、Email: kaijin@tokyoymca.org ^。

2026年1月第一例会報告 書記・小口

日時:2026年1月24日(土)18:00~ 北野事務所小会議室(敬称略)

出席者:ゲスト(卓話者)田口秀夫氏、(ひつじぐも)霞ひかるさん

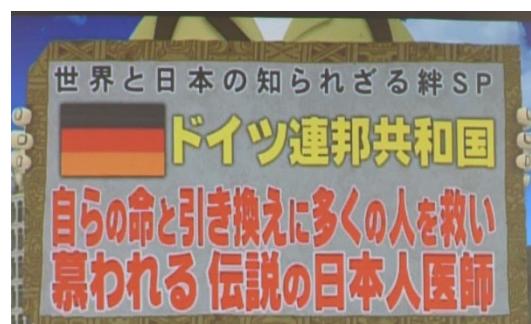
(A)長谷川、並木(眞)、稲葉、小口、(B)久保田、久保田佐和子、望月、花輪、(C)西嶋、大久保、山本以上13名

卓話:「八王子の偉人、肥沼信次博士」

田口秀夫氏(Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会事務局長)

先に肥沼氏のドイツでの偉業を伝える、テレビ東京の番組「自らの命と引き換え、命を捧げた日本人医師」を20分ほど。肥沼氏が学生時代に医師を目指し、ドイツに行った発端となった言葉は、インシュタインの「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」だった。

かつての東ドイツにあたるベーリツエン市で、チフスの治療に尽くし、自らもチフスにかかり37才の生涯を終えた。」



田口氏の話……「東西ドイツ統一後、ベーリツエン市での偉業が発見されて伝わり、日本に情報が届き、新聞の尋ね人欄で初めて、弟の栄治氏に伝わり、八王子市出身の肥沼信次であることが判明した。

2017年に八王子市とベーリツエン市は海外友好交流都市を結び、肥沼氏の墓前近くに桜の木100本の贈呈をした。肥沼氏が生前に、ただ一つの望みは、日本の桜をもう一度見たい!だった。ソメイヨシノはドイツに気温には適さず、再度新種の桜に植え替えたので、今は名所となっている。

今年、3月7日に八王子市の中町公園の顕彰碑の前で肥沼博士の命日(3月8日前の土曜日)に「ありがとうございます Dr.肥沼キャンドルナイト」を開催するのでみなさん、来てください。」

報告事項:長谷川会長から、①在京ワイス新年会 ②来週1月31日(土)東京YMCAアジアフォーラム、ネット中継にご参加を、事前申し込みの事、チラシに詳細。③ワイス・ナイト・フォーラム1月25日(日)pm8:00

④2月第一例会 C班、2月14日(土)卓話:フードバンクえがおの現状は。三浦すみえ事務局長

⑤2月第二例会 2月28日(土)

お知らせ:長谷川会長・使用済み切手の取り扱いについて。今後は、各クラブは1kgになるまでは、区事務所へ送付しないことに。クラブは大久保さんが担当で保管。

他クラブの行事:横浜つづきクラブ設立20周年・6月20日(土)

町田コスモス設立30周年・6月27日(土)

スマイル:9,450円

ハッピーバースデイ:西嶋健太さん(12月)

担当主事報告:西嶋主事から、4月から東京YMサービス(株)が閉じられるので社員は東京YMCAに属すること。

報告:並木真東日本区ユース事業主任から、インド体験交換プログラム2026(2/19~3/2)ハイデラバード。

以上、19:30分閉会。

2月ご誕生されたメンバー

久保田佐和子さん 2月21日

ワイス・ナイトフォーラム(Zoom開催)

今回のフォーラムでは東日本区のTOF活動として行っている不登校問題です。不登校がなぜ多くなっているのか、ワイスやYMCAはどんな対応を考えるかなど、不登校専門家の話を伺いながら進めていきます。

この問題に関心ある方、あるいは新入会員候補や知人を呼び、EMCにも繋がればと思いますので、是非、声掛けをお願い致します。

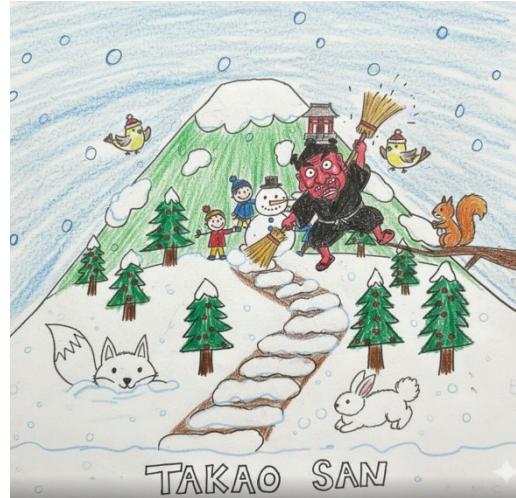
第2回 2026年2月15日(日曜日) 20時~21時
不登校問題: 富山YMCAの上村総主事は、20年前から学校になじまない子どもたちへの居場所を始めました。集まってくる子供たちは何を求めているのか、活動を通して考えることなどを紹介してもらいます。

参加アドレス Zoom

<https://us06web.zoom.us/j/89230588670?pwd=Y005g37WadnXKb4fq5YUxFJZ2Emqmi1>

ミーティングID: 892 3058 8670

パスコード: 975272



今朝の雪と高尾山をAiが子供向けて描いた絵

2月例会卓話者紹介

三浦すみえさん

1943年、静岡県清水市(現、静岡市清水区)生まれ。

静岡大学教育学部卒業

東京都立立川聾学校に入職。

その後、小平養護学校(現、小平特別支援学校)、八王子東養護学校(現、八王子東特別支援学校)、八王子養護学校(現、八王子特別支援学校)歴任。退職後は女性団体の役員や、母親大会実行委員会などで活動。

2014年と2015年の八王子母親大会で「子どもの貧困」について学び、学んだことを活かそうと考え、2015年の大会で講師をしてくださった佐野英司氏を中心にフードバンク活動を開始。

2016年9月フードバンク八王子えがお結成大会。事務局長着任。

2017年3月「特定非営利活動法人フードバンク八王子えがお」となって現在に至る。





東京八王子ワイズメンズクラブ

第24回

チャリティーコンサート

2026年
3月28日(土)

13:30開場 14:00開演
16:00終演

八王子市北野市民センター
8階ホール
(京王線北野駅2分)

主な曲目

- ・山田耕作：あわて床屋
- ・黎錦光：夜来香(イエライシャン)
- ・ヘンデル：オペラ「リナルド」より
“私を泣かせてください”
- ・グノー：オペラ「ファウスト」より “宝石の歌”
- ♪皆で歌いましょうコーナー♪
- その他、カンツォーネ、懐かしい日本の歌など

※なお、曲目は変更する場合がございます

出演者

山口佳子 ソプラノ (やまぐち よしこ)
矢崎貴子 ピアノ (やさき たかこ)



ソプラノ 山口佳子
やまぐちよしこ



ピアノ 矢崎貴子
やさきたかこ

山梨県出身。八王子市在住。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学を卒業。同研究科修了。ピアノを岡村玲子、北村陽子、野島稔の各氏に師事。研究科修了時、安川記念ジョイントリサイタルに出演。これまでに、新国立劇場、日生劇場、セイジョザワ松本フェスティバル、二期会など、様々なオペラ公演に稽古ピアニストとして携わる。また、東京混声合唱団とも共演を重ねている。学習院OBブームス合唱団伴奏者。現在、二期会研修所、国立音楽大学大学院オペラ科ピアニスト。

入場整理券

1,000円

お問い合わせ先：
花輪宗命
(090-2213-0257)

主催：東京八王子ワイズメンズクラブ

後援：八王子市

地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)

対人地雷・クラスター爆弾廃絶のために